

皆さん！ESDをご存じですか？



ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

一人ひとりが自然環境や資源の有限性、地域の将来性など、さまざまな分野とのつながりを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動する人材を育成する教育のことです。

漠然としていて分かりにくい？少し簡単に説明すると…

突然ですが、「100年後の地球の姿を想像してください」と言われたら、どんな未来を想像しますか？

普通に食べている米や野菜、普通に乗っている車、普通に見られる生き物など…。今、普通だと思っていることが100年後の未来ではどうでしょうか？自分の子どもや孫、その先の未来、今と同じ生活が継続できているのでしょうか？

少し資源を使い過ぎていませんか？もう少し、地球温暖化や生物多様性などについて、想いをはせてみませんか？

今を生きる世代だけで資源を使い過ぎず、将来について考え、学び、行動する、それがESDの考え方の一つです。失った環境はなかなか元には戻りません。自然環境とうまく付き合っていくためにも、まずは行動が必要です。

環境学習や生物多様性についてなど、学びの入口はさまざまです。目指すべき先のゴールは、持続可能な社会へとつながっていきます。さあ、皆さんも学びの“一歩”を踏み出しましょう。



(出展) 文部科学省ホームページ



※環境保全室では、出前講座や里山塾など学びの場を提供していますので、お気軽にご参加ください。

問合せ 環境産業部環境保全室 ☎96-8095



亀山市名誉市民

彫刻家 **中村 晋也**

作品紹介「ふるさとあい」Vol.11

「町田久成」(平成28(2016)年建立)

中村晋也の最新作をご紹介します。昨年11月に建立された「初代町田久成館長像」です。薩摩藩の名族に生まれた町田久成は、幕末に藩命を受け、幕府の鎖国の禁を犯して欧州に渡った留学生たちのリーダーでした。維新後は明治政府の文化行政を担い、博物館の初代館長として上野の博物館建設や博覧会開催に尽力しました。中村は、当時の写真をもとに、侍の風貌を漂わせる久成の姿を写し出そうと苦心したそうです。この像は、久成にもっともゆかりのある東京国立博物館の庭に、故郷薩摩の方角を向いて設置されました。



85cm(高さ)×44cm(幅)×41cm(奥行き)

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館 [URL http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html](http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html)